

質疑内容（令和５年度第１回小国町中心市街地活性化協議会）

今(与)委員　計画に盛り込まれた人口等の数値目標については、現実的な数字であり良いと考える。アスモは平成９年に建設されたが、町に１万２千人の人口がいることが前提で建てられた施設であり、町の人口減少が進んでいることに加え、施設も老朽化して改修に多額の費用が必要となっており、商業者はかなり苦戦をしている状況である。それに加え、コロナ禍、燃料代の高騰、ドラッグストアの出店等により外的環境も悪化してきており、今後も商業者が中心となってアスモを維持していくことが可能なのかというところまで踏み込んで考えていく必要がある。今回の計画では、ソフト事業によりアスモの賑わいを創出するのと合わせ、アスモ内に子育て支援センターが入ったように、公的な観点からも中心市街地におけるアスモの機能・役割の再構築をする必要があると考える。国庫補助を上手に活用し、アスモの維持と賑わいづくりにつながるようなプランづくりを盛り込んでいただきたい。

事務局　アスモについてはソフト事業だけで良いのかという点について、我々も担当課と協議を行っているところ。どのような事業を盛り込めるかさらに検討が必要だが、もう少し具体化したものを計画の中に盛り込めるよう整理したいと考えている。

木下委員　アスモがあつての中心商店街であり、個人商店は続々と廃業を余儀なくされている。人口が多かった時は子育て地藏尊のお祭り等にぎわいを創出していたが、そのお祭りも今年で最後になる見通し。このような中、組合で管理している街灯については防犯の面からも重要な設備であるが、電気代や修繕費等の経費がかかっており、組合員数が減る中で維持管理が大変であることから、こういったことも計画の中に盛り込んでいただきたい。

事務局　中心商店街の取り組みということで、商業振興と関連付けて盛り込めないか今後検討したい。

鈴木委員　西置賜観光協会のインバウンド推進協議会で台湾にPRに行ってきた。台湾は雪が降らないことから、雪の降る地域への旅行は喜ばれるのだが、米坂線が止まっているということがネックになっている状況である。インバウンドでは新潟空港から入国し仙台空港から帰国するというルートもあり、移動手段として米坂線は重要な路線であることから、米坂線の復旧をお願いしたい。

また、小国町は宿泊施設が少なく、小国町にお越しになっても町外に宿泊されてしまい、町内にお金が落ちない状況である。このような中、宿泊施設に係る事業がアスネットの改修だけで良いのか。民間の活力を使って国庫補助も活用し、早急に対応しなければならないのではないかと。

さらに、住宅整備事業については、民間でも今後建設を予定しているところがあり、家賃の安い公営住宅を建設されると民間住宅に空きが出てしまうことが懸念されることから調整をお願いしたい。

事務局 米坂線については我々も鉄道としての復旧を強く要望していきたい。宿泊施設については町中心部に少ないことからアスネットの改修事業を提案したところであるが、民間活力の活用についても今後整理していきたい。住宅事業については民間事業者の圧迫にならないように配慮するとともに、今年度町の委託事業で住宅需要の調査を実施しており、その結果も踏まえて整理していきたい。

今(秀)委員 子どもたちが町からいなくなる寂しさというのはあってはならないことであり、そのためにも小国高校の存続や小・中学生の居場所づくりが必要である。次期総合センターは学校のすぐ近くに建設されることから、良い施設となるよう期待しているところである。

学校でも外部講師を呼ぶことがあるが、やはり町内に宿泊施設がなく、飯豊町や長井市といった町外に宿泊してもらっている状況であり、町中心部への宿泊施設の整備を何とかお願いしたい。

事務局 次期総合センターには子どもの居場所や子育てを含めた空間機能を一部整備する予定であり、ご意見を踏まえて今後も整理していきたい。

小林委員 小国町は人口減少が続いているが、実は高齢者の人口は変わっていない。高齢者は趣味を楽しむために老人福祉センターに集まっているが、施設も老朽化が進む中、社会福祉協議会は財源を持たない団体であることから、今後どうしていくか悩んでおり、クラウドファンディングも検討するように事務局長に指示をしているところ。本日、各委員から出た課題の全てがこの1つの計画で解決するというのは難しいだろうが、何らかの解決の方向性を示さなければ、現在生活している人々が今後も町で暮らしていくことが難しくなるのではないかと考える。事務局には各委員からの意見を十分踏まえて計画策定を進めていただきたい。今のセンターも元々は周辺部の住民が早朝から町外へ移動できるように宿泊機能を整備していたところであり、夏山冬里克雪方式のような小国町の新しいスタイルを見出していく必要があると考える。

事務局 福祉部門の事業については内部でもつめきれていないところがあり、この計画の中で整理するのが良いのかも含めて今後検討してしたい。

北村委員（代理出席：豊原氏）

銀行として、ビジネスでは収益性と公共性の兼ね合いを見させてもらっているが、公共性が突出して高いビジネスは長期間の運営の中で収支計画や投資の面で支障をきたすケースが多く、民間だけで行うのは大変である。本計画の中に補助事業等の公共の取り組みを盛り込むことで、公共性の高い事業が成り立つのではないか。計画には住民アンケートの結果が掲載されているが、それが全てではなくアンケートにはない部分を創出し計画に盛り込んでいくことも必要であると考え。またこの計画期間は5年ということであるが、2期、3期と続けていくものと思うので、優先順位の中で切り捨てるのではなく長期的な視点で進めていただくこともお願いしたい。

事務局 公共性の部分についてはご指摘のとおりである。2期、3期と将来を見据えて考えていきたい。

村上委員 昨年から仕事の関係で小国町に住んでいるが、小国町内は活気が少なく、アスモも日曜日が休みになっているところを見ると、それだけ町外に人が出ていっていることかと推察する。次期総合センターは子どもが集まるような施設であれば大人も訪れるし、アスモも同様であると考え。中心市街地の活性化のためには、次期センターとアスモの両輪で計画していかないと町の発展も望めないし、万が一アスモもなくなれば、お年寄りが食料難民となり町での生活に支障が出ることも予想されるので、中心市街地の活性化のために次期センターとアスモの両輪で進めていただきたい。

事務局 アスモの活性化が中心市街地の取り組みに重要であることから、今後整理していきたい。

石井委員（代理出席：村上氏）

中心市街地の活性化に係り、以下の4点を提案する。

ハード面：①町内バス停の名称をより分かりやすいように変更する。

②トゥクトゥクを導入し町内を周遊できるようにする。

③次期総合センターにサウナを整備する。

ソフト面：④ナイトタイムエコノミーによる夜の時間帯の活用を図る。

事務局 ①バス停の名称については今後検討したい。

②町内の周遊策としては電動キックボードの導入を事業として検討して

いるところである。

③浴場機能については次期総合センターとは別の形で整理することとしている。

④ナイトタイムエコノミーについては具体的な内容を調査していきたい。

山口委員 仙台市の郵便局の同僚に小国町に観光に来てもらったことがあり、宿泊はやはり飯豊方面だったが、わらび園やアスモでの買い物が非常に喜ばれた。小国町には課題もあるが、魅力もまだまだいっぱいある町だと思っており、今後も頑張ってもらいたい。

事務局 小国町の魅力的を上手く中心市街地の活性化に結び付けていきたい。

佐藤(靖)委員 子どもたちを含めた若者が町に残るためには文化の刺激が、商業者としては経済の刺激も必要であり、文化と経済の両輪で検討していただきたい。原案書 P.8 では回遊性を確保する中心部の拠点としてアスモが位置付けられているが、生活者の利便性維持や、商業機能の維持向上に向けたアスモの役割もぜひ計画に盛り込んでいただきたい。アスモは子どもや高齢者の福祉や介護生活に必要な拠点機能や、公共交通、防災の拠点機能も持ち合わせていることから、マスタープランの中に盛り込んでいただくように検討願いたい。

さらに、アスモは建設から 30 年が経過している中で、新たな取得財産の兼ね合いもご検討いただきたい。

事務局 文化と経済の両輪というのは、にぎわいづくりや活性化につながるものであり現在の計画もそのような作りで整理している。アスモとセンターの回遊性を含めた具体の事業については今後さらに整理していきたい。

丸山委員 鉄道関係の取り組みとして、小国高校生と連携し、小国駅咲くプロジェクトが進行している。現在鉄道は動いていないわけだが、小国駅自体が旅の目的地となり地域の方も集える場所にすることを目標としており、地域の皆様と連携して様々な取り組みを実践していきたい。若者と高齢者とのつながりが地域をつなぐものとなるため、次期総合センターも人の集える場所にしていただきたい。

阿部委員 小国の町づくりの歴史を振り返ると、町中心部に都市的な機能有したセンター等を整備し、その後に周辺部を整備していった。町中心部におけるにぎわいや回遊性については、当時の商店街等の皆様に活力があったことからあまり手をかける必要がなかった。そのように周辺部の整備を進めてき

た中で、現在、町の人口は7,000人を切るところまできており、市街地は皆様のご発言のとおり課題に直面していることから、再度中心部に立ち返ってどのように盛り上げていくのか、皆様からご意見をいただいて本計画を策定しようとしているところ。この計画期間の5年間でなしえるものではなく、町の変化を受け止めながら計画を見直しながら対応していく必要がある。かつてのような全国一律の事業を展開すれば良いというものではないため、我々も慎重に対応していきたい。

安孫子オブ      人口減少や人手不足は小国町だけでなく置賜全体の課題であると認識している。一方、各委員から小国町はまだまだ発展できるという意見がでており、そういった意見を活かしながら今後の計画を進めていただきたい。中活計画については置賜総合支庁や西置賜支所にも関係部局があるため、本日の協議会の内容を情報共有させていただく。

安達オブ      中活計画は町の総合計画等のマスタープランの下にくる計画であり、5年間の計画期間の中で事業を盛り込んでいくものであり、他の自治体も毎年変更しており、当初の事業だけでなくどんどん新しい事業を追加していける。逆に社会が変化していくなかで、事業の変更がないというのはおかしい話であるし、そのためにも公共だけでなく民間、中心地だけでなく郊外で活動されている方も一緒に巻き込んでいっていただきたい。中活区域内でも学校が集まるエリアやアスモ・駅前エリア等があるが、それぞれの拠点のエリアビジョンがない中での計画策定は大変な作業である。この計画は今のまま進めるとしても、将来的には民間の皆様と一緒にビジョンを作成して新しくこの計画に盛り込んでいくというやり方も検討いただきたい。